

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

### 「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第17回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



#### 「7.22宗形明・長野講演より」

### 時代は間違いなく変わっている

富田常務がJR総連大会で「是々非々...」と言った。「それが怪しからん」と小田裕司がJR東労組の大会で言ったら、清野さんが「私も含めて社長も常務も『是々非々』だよ」と言っただよ。そこから面白い。富田常務が言ったら「ナンセンス」とか言ってわいわい大騒ぎをして、JR総連大会で騒いだ。東労組大会で小田が言ったらワイワイと騒いだ。そこは記録を見ると良く分かる。その後で清野さんが「常務も同じ、私も同じだ」と言ったら、あの大会がシーンとしてしまった。大会3日目に松崎氏が講演したと聞いたから、僅か数年前に「松田出て来い！大塚出て来い！掛かってこいよ！」と言った人物が、一体どんなことを言うのか関心があった。今度の本部大会で、清野さんが「やっぱり私も是々非々だよ」と言っただよ。そしたら黙っちゃって、記録のどこ見ても、それに対する不満なんて何も言っていない。結構会社とうまくやりたいようなことを言っている。「何なんだ、これは」と思う。じゃあ、「大塚出て来い！松田出て来い！」と言っていたのは何なんだ。それが私の言う「時代は変わっている」ということである。

会社の本音は一体どっちにあるんだ。「ここで、ほどほどにね」とか、皆さんの運動を「何とかそこまで過激にやらないで」と言っていることも本当である。「是々非々でこれからきちっとやるよ」と言っていることも本当。どっちも本当で、今、私はどっちも本当であると思う。私はこれでいいし、これしかないないだろうなというのが、私の見方である。そのような会社の真意というか、行間を汲み取るというのは、それを解釈するのは社員としての皆さん自身である。今日、一番私が言いたいのはこのことである。つまり、浦和電車区事件というのは、松崎氏の言うことを別な言葉で言ったことでも「ウチの親分はこういうことを言っているんだな」ということで大宮は勝手に解釈して浦和電車区事件を起こしてしまった。ところがその解釈も、全然そんなに解釈しないで程々に解釈した地本もある。それも全部東労組の松崎グループの錚々たるメンバーが全部ばらつきが出て解釈する。それが解釈するリーダーの“質”である。ここに「JR東労組の真の一枚岩の団結をつくりだそう」という文書がここにある。本部派幹部作成の文書だが、ここに何が書いてあるかということ、学習討議資料で「松崎前顧問が提起した問題で勉強してほしい。松崎顧問は主に積極攻撃型組織防衛論で今回の事件に適用して我々に分かりやすく教えてくれている。まず積極攻撃型組織防衛論であるが、この意味の一つは敵対矛盾として現れる吉田に対する闘いは積極攻撃型組織防衛論からして全く正当な闘いであること」。これは松崎氏の指示だと解釈すると言っている訳である。それである事件が現実起こった。そして不幸な7名が出た。これの中で幾つかが、皆さんが解釈するのは「積極攻撃型組織防衛論」で解釈するのではなく、今この苦しい会社が、東海や西とは違いバグダットのフセインを攻略しなければいけない会社が、今言える限度はどこまでなのかそれを常に考えながら、それを皆さんが解釈して、次の段階で会社が動きやすい条件をどうやってつくってやればいいのかということである。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?” (高木書房) P.158 ~ P.161】